

平成27年度岩手県水産試験研究評価結果報告

<外部評価による研究機関評価結果研究課題評価結果報告>

1 概要

岩手県試験研究評価ガイドライン及び岩手県水産試験研究評価実施要領に基づき、水産技術センター及び内水面水産技術センターの平成27年度の主要研究課題にかかる評価を外部委員会により実施しました。

2 評価の実施方法

(1) 水産技術センター及び内水面水産技術センターによる内部評価の実施 (4~6月)

(2) 岩手県水産試験研究評価委員会体制の再構築 (5~7月)

(3) 岩手県水産試験研究評価委員会幹事会による委員会開催内容確認 (7月)

(4) 研究機関評価、研究課題評価にかかる資料の事前送付 (7月27日)

評価委員に、岩手県水産試験研究中期計画、水産試験研究評価対象課題6件(事前評価1件、中間評価5件)にかかる資料等を送付し、事前検討を依頼。

(5) 岩手県水産試験研究評価委員会 (8月5日開催)

ア 岩手県の水産試験研究概要、水産試験研究評価の仕組み、水産試験研究中期計画のローリング結果等について事務局から説明。

イ 評価対象研究課題ごとに、研究の背景、目的、課題構成、年次計画と成果、到達目標、期待効果などについて、各研究担当者からプレゼン形式で説明。

ウ 評価委員は、質疑を行いながら、研究課題評価について検討。

(6) 評価票の提出 (~8月31日)

評価委員から、機関評価及び研究課題評価、取組全体に対する意見を提出。

3 評価項目 [\[課題概要はこちら\]](#)

(1) 事前評価

1 背景・目的	・目的の妥当性
2 必要性・緊急性	・必要性・緊急性
3 研究目標	・新規性・独創性 ・到達目標の妥当性 ・期待される効果
4 研究内容	・事前調査状況 ・研究計画の妥当性 ・具体的研究内容の妥当性
総合評価	
研究課題の採択	

(2) 中間評価

1 研究の進捗度	・研究目標の実現可能性
2 情勢変化への対応	・情勢変化への適合性
3 研究成績	・研究成績の妥当性
4 研究成果の発信	・研究成果の発信状況

5 当年度計画	・当年度計画の調整状況
6 実用技術としての評価	・成果公表の予定時期
総合評価	
研究課題の取扱	

4 評価結果の概要

(1) 事前評価

課題名	総合評価	研究課題の採択	取扱方針	主なコメント
アワビ・ウニ等の餌料対策に関する研究	A:5.5人 B:1.5人	A:6.5人 B:0.5人	提案内容で実施	この研究課題の位置づけと残された問題点を明確にして欲しい。「海藻をただ増やせば良い」という間違っただ認識を定着させないように留意すべき。コンブやワカメ以外の小型海藻類の重要性についても検討が必要。 生産の現場からも餌料対策が強く求められており、簡便な海藻現存量の把握手法が確立されれば、各漁協の種苗放流・資源管理等の取り組みに資するものとなる。研究が円滑に進むよう、予算確保等の手立ての検討が求められる。

※評価区分の説明

区分	A	B	C	D
総合評価	適切	一部見直し必要	大幅見直し	不適切
研究課題の採択	提案内容で実施	一部見直して実施	計画再考	不実施

(2) 中間評価

課題名	総合評価	研究課題の採択	取扱方針	主なコメント
毒化した二枚貝の麻痺性貝毒減衰時期予測、及びシストの分布と二枚貝養殖漁場の環境評価	A:7人	A:7人	提案内容で実施	出荷規制解除の時期の予想が出来れば、計画的な出荷が可能となり、生産の安定に繋がる。実用化には、毒量ピークの把握が課題。 ホタテにおいて毒量減衰式を立てることができることを示したことは成果として注目するべきであるが、原因藻の量と毒量に相関がないため、最高毒量を定めるために出荷出来ないホタテガイの毒量を検査し続け、最高毒量を決めなくてはならないところが問題。是非この問題点も解決するための研究開発にも取り組んでいただきたい。
アワビ等の種苗放流に関する研究（種苗生産の安定・低コスト化技術の開発）	A:7人	A:7人	提案内容で実施	沿岸の重要資源であるアワビの種苗生産の回復のため、効率的な種苗生産を目指した技術開発が進められている。すでに現場への技術移転についての具体的な対応が進められており、研究は順調に進んでいると判断する。 栽培協会での実用スケールでの実施によって達成できるコスト減の具体的な数値で示すことができれば十分に説得力を持つと思われる。
海況変動を考慮した漁況予測技術の開発	A:7人	A:7人	提案内容で実施	長期継続的に必要とされる課題であり、今後も継続した予算配置、人員配置をお願いしたい。さらに精度の向上を目指しつつ、課題を継続されることを期待する。 漁業を営む上で、海況予測は非常に重要である。予測のためには、継続したモニタリングが必要であり、引き続き取り組んでほしい。

原料特性に関する研究 ①ワカメ等の塩蔵製品の品質安定化の確保	A:7人	A:7人	提案内容で実施	センターで開発した装置の正しい使用法を普及することにより、岩手ワカメのブランドの価値を保とうという課題であり、実用的かつ緊急性の高い課題である。さらなる品質向上や効率向上のための研究開発が期待される。 本県の主要生産物であるワカメ・コンブ等海藻加工製品の品質維持・向上にする重要な研究であり、特に現場における巡回指導等の継続実施により、生産現場での課題解決に大きく貢献するものとなっている。
魚類防疫及び魚病診断・治療に関する研究	A:7人	A:7人	提案内容で実施	リスクマネジメントの観点からも、早急な人員増強と予算拡大を希望する。担当者が一人では緊急時に対応できないと思われる。 漁場環境の変化や他県からの種苗の持ち込みなどによって、今後新たな魚病が県内で発症する可能性が高まっていることを考えると、正規職員を増員して診断技術の更なる向上、知識や情報の集積に対して努力する必要があるのではないかと思います。

※評価区分の説明

区分	A	B	C	D
総合評価	順調であり問題なし	ほぼ順調だが改善の余地あり	研究方法を変更する必要がある	研究を中止する必要がある
研究課題の取扱	計画どおり実施	一部見直して実施	計画再考	廃止

5 外部評価委員

区分	所属等	氏名
学識経験者	東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター長	河村 知彦
	(独)水産総合研究センター 東北区水産研究所業務推進部長	渡邊 朝生
	北里大学感染制御機構釜石研究所 部長	笠井 宏朗
	岩手大学三陸水産研究センター 副センター長	阿部 周一
漁業生産者	岩手県漁業士会長	吹切 守
水産加工業者	岩手県青年水産加工研究協議会監事 (有)リアス海藻店代表取締役	平野 嘉隆
水産団体役職員	岩手県漁業協同組合連合会 指導部振興課長	佐々木 安彦
一般消費者	マリンマザーズきりきり事務局	芳賀 カンナ (欠席)

(敬称略)

6 特記事項 (総合質疑・意見交換)

- 予算や人員を確保するには広報活動が非常に重要と考えている。「いわて大漁ナビ」はものすごく役に立っていて、その割にはあまり知られていない気もするので、もうちょっと宣伝していただいてこれが役に立っていることをアピールしていけばいいかなと思っている。
- 漁業就業者の人数も減ってきている中で、漁業者だけのニーズだけでなく、例えば釣りをしている人たちを見方に付けるとか、作戦が必要かもしれない。
- 震災のせいで、色々悪いこともありました。今、かなり追い風が吹いていると思う。それをどう活かすか数年のうちにやらないと活かさないなので、どうやってこの追い風を水産にいかしていくかというのを皆で考えなければいけない。
- 研究員の成果発表について三陸の加工業者は、結構楽しみにしている方も多いようですので、ぜひ予算を惜しまず、頑張って新商品の開発につながるような研究成果を出してくれば大変ありがたい。